

令和3年度「ながの未来トーク」集約表

開催日：令和3年7月27日（火） 午後6時30分～午後8時25分 会場：信更公民館

地元参加者：48人（男性38人、女性10人）

市側出席者：加藤市長、西澤企画政策部長、宮岡地域・市民生活部長、櫻井農林部長、樋口教育次長、勝野教育次長、竹内支所長

会議形態：未来トーク方式

【議題に関する会議】

《1 信更中学校閉校後の利用について》

少子高齢化により、信更地区も児童数が減少し、平成28年度には更府小学校と信田小学校が統合され、信更小学校が開校された。これに伴い、旧更府小学校の敷地、建物は長野市の管理として利用されているが、有効利用されているとは言えず、維持管理、清掃等も行き届いていない現状である。また、今年度から信更保育園が休園となり、令和4年度末には信更中学校も閉校になり、このままではますます少子高齢化、過疎化が進んでいく。

そこで、長野市や信更地区の活性化につながるように、これら施設の利用方法、また雇用創出などが期待できる民間団体・企業誘致なども含め、行政が主体となり検討していただき、信更中学校閉校後速やかに実行できるよう今から準備していきたい。

また、平成30年度の「信更地区ながの未来トーク」でも旧高野分校、旧更府小学校の利用について話し合われているが、その後の状況を聞かせていただきたい。旧更府小学校の現状を見る限り、進展しているとは思えない。せっかくの施設、気持ち良く利用できるように今後も引き続き検討し、この場だけの話し合いで終わる事のないようにしていただきたい。

《回答》

令和5年3月で閉校となる信更中学校の閉校後の利活用については、これから住民自治協議会をはじめ、信更地区の皆さまのご要望をお聞きしながら検討を進めていきたいと考えている。

検討に当たっては、災害時の避難所機能の確保や文部科学省への財産処分手続き等課題はあるが、庁内他課による利用、民間団体・企業による利用などさまざまな可能性を模索していく。その方法の一つとして、文部科学省ホームページ内の「みんなの廃校プロジェクト」へ情報を掲載して全国から利用提案を募ることも考えられる。

現状では、他の閉校になった学校施設の利活用について、市内外から問い合わせをいただくが、実際の利活用までなかなか結び付いていない。教育委員会としても、閉校後の学校施設が速やかに有効活用されることや活用により、地域活性化につながることを望んでいる。検討を進める際には是非、信更地区の皆さまのご協力をお願いしたい。

旧更府小学校施設の後利用については、更府小学校後利用検討委員会での同意に基づき、現在、文部科学省ホームページ内の「みんなの廃校プロジェクト」へ旧更府小学校施設の情報を掲載し、全国から利用提案を募っている。

情報掲載以降、複数の問い合わせや提案があったが、問い合わせのみや並行して検討していた他の候補地を選択されるなど、これまで実際に後利用にまでつながるものはなかった。

そのような中で、本年6月には、市内（で介護福祉士やスポーツトレーナー養成の専門学校を運営する）学校法人から、令和4年4月、新たに開校を予定している広域通信制単位制高等学校校舎として更府小学校を活用したいとの提案があり、現在、住民自治協議会や更府小学校後利用検討委員会で検討をいただいているところである。

今後、高等学校の校舎として更府小学校が活用されることとなれば、学校法人の提案の中で、通信制ではあるものの、週5日登校する生徒が、ある程度見込まれること、また、生徒による地域イベントへの参加や地域ボランティアの実施など地域との積極的な関わりが掲げられており、信更地区の皆さまの意向と合致すれば地域の活性化にもつながることが期待される。

なお、旧高野分校は、現在、「信更公民館高野分室」と「かがやきひろば信更」として、信更地区の皆さまに活用いただいている。教育委員会とすれば地域の活性化にもつながる施設の有効活用について、地域の皆さまの意向を確認しながら、引き続き検討してまいりたいと考えているので、よろしくをお願いしたい。

【樋口教育次長（行政）】

《質問》

更府小学校について、先日、後利用検討委員会を開催し学校法人に対し、提案には異論がないので、進めてくれと回答している。民俗資料館についても、学校法人光和学園と教育委員会とで協議しながら進めてほしいと伝えている。教育委員会としてはどのように受け止めているか。

《回答》

検討委員会で異論がないということなので、市としてもさらに話を進めているところである。進展があれば皆さんにご報告をする。また、当該法人でバスが必要だということで、バスを出す方向で検討をはじめっていると聞いている。

【樋口教育次長（行政）】

《質問》

信更中学校について後利用で提案があったかと思うが、教育委員会の判断になるが、必要があれば8月25日の役員会で説明してもらえればいかと思うが。

《回答》

まだアイデア段階の話だと思うが、一部の役員の方に話しがあったと聞いている。ただまだアイデア段階であり、市教委としてもまだ具体的にお示しできる段階にないので、内容が詰まってお話ができるようになった時期が来れば、改めてご相談等させていただきたいと思っている。

【樋口教育次長（行政）】

令和3年度「ながの未来トーク」集約表

《質問》

高野分校については、信更公民館の分館扱いになっているが、あまり利用がされていない中で、指定管理から外していただくことはできるか。

《回答》

数年前は、1,000人を超える利用者があったが、近年は減少しているのが実情である。今後の扱いについては、別途、ご相談させていただくことにしたい。

〔樋口教育次長（行政）〕

《質問》

信更中学校の後利用が決まらなると、だんだん体育館も傷んでくるので、定期的に清掃に入るとか対応をしてもらいたい。

《回答》

できるだけ早く利活用ができるようにすることと、できるだけ施設をいい状態で維持できるようにしていきたい。

〔樋口教育次長（行政）〕

《質問》

更府小学校の体育館は避難所になっているので、それも踏まえて学校法人側と協議してほしい。

《回答》

そういうことも踏まえて対応していく。

〔樋口教育次長（行政）〕

《質問》

建物は何年建設か、耐震改修工事はしてあるのか。

《回答》

校舎は昭和54年建設で、耐震改修は平成24年度に実施している。施設については十分利用できる。体育館は昭和60年、特別教室は平成4年に建設した。

〔樋口教育次長（行政）〕

《要望》

信更中、更府小学校までの道路が狭いであり、避難所にもなっているため道路改良をお願いしたい。また、後利用をしようとする事業者に対して、頓挫することのないように市でしっかりとした調査等対応をしてほしい。

《回答》

道路改良等含め、関係部局と協力して対応していきたい。また、今話している法人とは詳細まで詰めて、問題ないようにしていきたい。

〔樋口教育次長（行政）〕

『担当課：教育委員会総務課』

《2 中山間地の学校の存続について》

中山間地の少子化に歯止めがかからず、どの小学校も閉校がすぐ近くに迫ってきているような感覚にあると思う。信更地区も同様で中学校の閉校時期が決まった。小学校に関しても、人数の減少が著しいため、5年以上前から学校存続に向けて、保護者の有志で活動をし、現在はPTA役員も共にこの問題に取り組んでいる。

長野市から出された学校の在り方に関する答申では、2つの大きな柱として「地域に学校を残すこと」と「発達段階に応じ、多様な人間関係の中での学びの場を確保する」ということが、謳われている。

地域に学校を残すためには、子どもの人数の確保が必要。信更地区では移住に力を入れ、一定の効果も表れている。もう一つ子どもの人数を確保するために、他の地域の子どもに信更の学校に通ってもらうという方法がある。

そのために、現在存在する制度は小規模特認校制度（鬼無里地区で導入中）がある。また、現在教育委員会と協議しているなかで、提案された特例制度も同様に、学区制度の弾力化を図るという方法であり、制度としては、とてもありがたい。

しかし、そこには大きな問題がある。それは、「通学は親の責任において」という条件付きのものということである。これでは親の仕事の都合もあり、通える児童は、かなり限られてしまう。これによって、せっかく制度を導入しても、町場の学校から中山間地の学校に来る児童が増えないというのが実情である。つまり、実際は全く効果のない制度となっているのが現状である。

市長は地域を元気にとおっしゃっていた。答申でも地域に学校を残すと言っている。であるのならば、前述の制度導入とともにスクールバスなどの通学補助をしていただいてもよいのではないか。

《回答》

信更地区の皆さまからは、信更中学校を閉校するに当たり、「信更地区の子どもたちが、より良い教育環境で勉学に励めるように」とのご要望をいただいている。市としても、皆さまの気持ちを受け止め、対応していきたい。

令和3年度「ながの未来トーク」集約表

令和2年12月11日に信更地区住民自治協議会ほかの皆さまから、上記要望と併せて、「信更小学校の今後のあり方についても住民自治協議会、保護者、市教委との協議を継続することをお願いしたい」との要望もいただいているとおり、現在、保護者の皆さまと、信更小学校の将来像についての話し合いを続けているところである。

信更地区通学区域特例校制度の説明をさせていただく。これは2つの制度を合わせたもので、一つは小規模特例制度で、市内全小学校から信更小へ通学できる制度。もう一つは、信更小から中学校の接続を考慮して、篠ノ井小学校、塩崎小学校、信州新町小学校への通学を可能とする制度で、限定隣接学校選択制度という。この二つの制度を並行して行うものが、信更地区通学区域特例校制度である。

現在、この制度の実施を3年間程度導入してみてもどうかと提案している。また制度を利用する方への通学補助については、信更小学校の将来像を検討する中で、どのような通学補助が良いのかは同時に考えていくことが大事であると考えている。信更小の将来像の話し合いの中で十分検討していく

〔勝野教育次長（教育）〕

《質問》

スクールバスや通学補助については、前向きに考えているということですか。

《回答》

信更小学校の将来像の方向が見えてきたところで、必要に応じて、補助は必要であろうと現在考えている。

〔勝野教育次長（教育）〕

《質問》

信更小学校以外の区域から通う児童にも補助について前向きであるという認識でいいか。

《回答》

難しいところではあると思っている。補助をすることによって動きがどうなるかをある程度予測する必要があるので、ともに考える中で、必要に応じて、と考えている。

〔勝野教育次長（教育）〕

《質問》

だいたい、どのぐらいの時間をかければ結論が出るのか。

《回答》

現在保護者の皆さまと相談させていただいており、その方々と詳しく詰めていく必要があると思っている。

〔勝野教育次長（教育）〕

《質問》

中山間地の学校が閉校・廃校になるときはそこにいる児童らの通学補助は出してくれるが、町から山に引っ張るようなところは、通学費補助の話が前に進んでいかない。既に鬼無里は特例制度をやっているのだから、そこらへんは通学費補助を出してもいいのではないかと思う。ただ、いつもその話をすると市教委は全市的な問題が必要であるということで、財政的な問題なのかかわからないが、実現が進んでいない。やはり難しいことなのか。

《回答》

同じ市内で通学費補助のあるところとないところの差があってはいけないので、全市的なことを考えながら、義務教育であるので公平性は保たなければならない。鬼無里は平成30年度から、小規模特例制度を採用しており、現時点で補助は出していない。10件程度の問い合わせがあり、5件は実際に見学したり具体的な話を進めたが、最終的には現在1名の児童がこの制度を利用している。利用しなかった方に理由をお聞きすると、通学補助も理由の一つにあるが、やはり一番は距離があるため、子どもの通学時間的なものの負担が大きい、子どもに何か緊急の事態があった場合、迅速に迎えに行くことが困難であることが理由に挙げられている。総合的に考えたときに鬼無里の場合は、本制度を利用できなかった。この鬼無里の例を併せて今後考えていきたいと思っている。

〔勝野教育次長（教育）〕

《質問》

同様の制度で通学補助を実施している他市を見学したが、利用する児童の数は多かった。そもそもの入口で、通学は親の責任でお願いしますと言われると、普通は止めますになってしまうと思う。市がもし答申の中で、中山間地の学校を残そうというのがなければ、力を入れなくてもいいと思うが、答申の中で、残そうという方向になっているのに、そのような対応がとれていないのは疑問だ。

自然豊かな山の学校へ通いたいという児童や、学校になじめないという児童のいずれも、通学補助があればいいと思う。信更は、篠ノ井から15分程度で来ることができるので、スクールバスを出さなくてもそれほど大きな問題ではないと思う。

《回答》

特例制度でうまくいっているところと、厳しいところの両方がある。総合的な観点で、通学費補助については検討をさせていただきたい。

〔勝野教育次長（教育）〕

令和3年度「ながの未来トーク」集約表

《意見》

中山間地域から市街地の高校に通うときに通学補助を出している。逆に市街地からくる場合は補助を出していない。それだからどんどん若者も地区を出て行ってしまふ。とりえずやってみようという気にならなければ。ちょっとした経費を出すだけで、学校が存続すると思う。

《質問》

小学校でオンライン授業をしているところがあるのではないかと。導入すれば通学の負担が減ることになる。

《回答》

ギガスクール構想で8月中には長野市も全生徒にパソコンが配備される。他校との交流はオンラインで進んできている。学校にきてコミュニケーションを図る事は大事なので、すぐに実施とはいかないが、今後の検討課題かと思う。

〔勝野教育次長（教育）〕

《質問》

本件について保護者と教育委員会で話をしているということなので、途中でも構わないので住自協の方へも情報提供いただきたい。

《回答》

最近アンケートを実施した。現在取りまとめているので、その結果を踏まえてお知らせしたい。

〔勝野教育次長（教育）〕

《意見》

中山間地にバスを走らせる、通学補助をするということは特例的なので、そういう特例を認めたくないという市の意向がある。信更保育園の休園の際には、一番近いところへ通わせたくても、定員オーバーで通わすことができないということがあった。このままでは小学校も閉校になってしまうので、全市的にどうかではなく、中山間地域だけでもスクールバスを走らせて、とにかくやってみてほしい。

《要望》

保育園の休園の問題で、信更保育園に入る予定であった子には優先的に親の希望を叶えてほしいとお願いしたら、それは全体的な中で難しいと言われ、希望の保育園に入れない事態を危惧していた。実際に危惧したとおりになってしまったと知った。小学校にしても結果的に親の負担が増える事態にならないようお願いしたい。

『担当課：教育委員会学校教育課』

《3 信更支所へのエレベーター設置について》

信更支所は、平成2年に建築され、30年が経過している。市が作成した個別施設計画では、耐用年数が80年となっており、あと50年近く現在の建物を使用する目標だと伺っている。耐震基準は満たしているようだが、2階へ上がるエレベーターが設置されていない。

私は住民自治協議会の事務局長を仰せつかっているが、支所の2階で会議があるたびに、階段を苦勞して登っている。多くの役員が高齢者であり、1階と2階の間の踊り場で、皆さん一休みをしながら、2階の会議室に向かっている。

また、役員のみならず、各種団体の皆さんも例外なく高齢化が進んでいるので、階段の上り下りには大変苦勞されている。

現在は多くの建築物のバリアフリー化が進んでいるが、残念ながら支所は、ひとにやさしい施設とは言えない。今後、50年近くも使用しなければならぬならば、誰でも負担なく使用できるよう、エレベーターを設置していただくようお願いする。

《回答》

今回ご提案いただいた信更支所へのエレベーター設置については、施設のバリアフリーは重要であると認識しているが、支所に隣接している信更公民館の2階には、支所2階会議室(約157㎡)と同程度の広さを有する、大会議室(約216㎡)がありエレベーターも設置され、上層階への移動のためのバリアフリー化が図られている。

信更公民館は、信更地区住民自治協議会が指定管理者として運用されており、住民自治協議会や関連団体の会議については減免規定も適用されていることから、会議の参集範囲や用途に応じて、支所2階の会議室の利用に加え、公民館2階の大会議室の利活用も検討いただきたい。

〔宮岡地域・市民生活部長〕

《質問》

コミュニティセンター化になれば対応も変わると思うが、公民館は、現在生涯学習の場でありそれが優先される。会議の数も多くて、エレベーター設置を要望した。

《回答》

川中島支所は、同じような時期に支所を建て、2階建てでエレベーターもない。川中島公民館については同じ敷地内にあり、平成25年ごろに建築され、こちらは2階建てでエレベーターもついている。支所には住自協も入っているが、会議を公民館の2階でや

令和3年度「ながの未来トーク」集約表

るなどしている。そうした事例もあることから、エレベーターについては、まず、公民館との併用でお願いしたい。

〔宮岡地域・市民生活部長〕

《質問》

本来公共施設は、バリアフリー化が必要であるが、それができていないと障害者の差別につながる。『あなた、2階へ行けなければ役員になれませんよ。』という事態にならないようにしてもらいたい。

《回答》

古牧支所は2階建てだが、エレベーターはついていない。そのかわりに階段に昇降機がついている。ただ、操作が手間なので、あまり実際には利用されていないと聞いているので、今日は提案をしなかった。ただ、障がい者の方も役員になるということもあるので、検討課題として考えてまいりたい。

〔宮岡地域・市民生活部長〕

【自由討議】

《有害駆除の助成金の減額について》

今日は、農林行政の後退の理由を伺いたい。

平成30年度以前、補助金は、シカもイノシシも12,000円だった。平成31年4月1日から捕獲補助金額が二つに分かれた。一つは廃棄処分、これは平成30年以前と同じであり、殺処分して埋葬するというもの。これは変わっていない。変わっていないのに、長野市は8,000円に減った。これは、長野市の行政の後退である。それとあと一つは、ジビエ個体が開設し、これも12,000円の補助金が、11,000円に減ってしまった。これも後退である。だから、すぐにでも戻して欲しい。戻さないため、止め刺し料が出ない。平成30年度までは、止め刺し料として2,000円ついていたが、今それがどうしても出ない状況に陥っている。その件に関しては、いっぱいお伝えしたいことがあるので、ここに『令和3年4月5月6月のジビエ個体に関するまとめ』という文書と、『信更猟友会が続行するための提言』をまとめた文書があるのでお渡しする。なぜ、行政の後退が起こったのか、農林部長にお答えいただきたい。

《回答》

信更猟友会では、長野市全体の3割にあたる捕獲をしており、農業被害の軽減に非常に貢献いただいている。平成30年度以前は、国からは8,000円で、市から12,000円を補助していた。令和元年から国のジビエ活用の交付金が二つに分かれたので、ジビエ活用は20,000円、埋設については15,000円と下がってきている状況である。

長野市としてはこれ以上、鳥獣被害を増やすわけにいかない。かつ、捕獲した個体についてはジビエに活用していくことにしている。そのような中で捕獲と埋設で交付金を同じにすれば、活用個体の搬入が少なくなる懸念があるので、国も交付金に差を設けている。長野市も連動した形をとっている。市の厳しい財政事情の中で、限られた資源を効率的に配分しようとしたものである。

今後、ジビエ個体の良好なもの補助金は高く(23,000円)、ペットフードになるものは17,000円で猟友会の皆さまのモチベーションを維持する形で進めていきたい。

〔櫻井農林部長〕

『担当課：いのしか対策課』

《買い物弱者について》

団塊世代が2025年に全員が75歳に到達する。免許証の返納もやってくる。中山間地では移動手段の確保が大きな問題である。月に1回位、更府、信田地区買い物バスツアーを計画してほしい。それにより利用者の交流や高齢者の孤立化の解消につながると思う。現在、コブながので、週1回信更地区を回っているが、条件によっては利用できないひとかなりいる。小さなバス(巡回のバス)で買い物するより、大きなスーパーで買い物する方が気持ちも変わってくる。将来考えてもらいたい。

《回答》

まちづくりアンケートで市の課題を聞く中で、公共交通の確保は行政課題となっている。この場ですぐに回答はできないが、検討課題とさせていただき、政策に活かしていきたい。

〔西澤企画政策部長〕

『担当課：交通政策課、地域包括ケア推進課』

《信更体育館について》

子どもたちとバドミントンをやるために信更体育館をよく利用するが、いつも信更体育館に行くたびに残念である。1/3の電球は切れていて薄暗い。昼間に行けば、西側のカーテンは白でまぶしく、しかもボロボロでまぶしく、東側はカーテンすらない。モップも定期的に変えてほしい。拭けば拭くほど汚さが増すという声も聞こえてくる。天井板の劣化も激しくなっていて、壁のはがれた白いものが点々と落ちている。この地区以外の人も申し込まれ、いろんなスポーツの団体も利用されているようである。予約が取りやすいということもあるが、利用者に「汚いな」と思われるのは好ましくない。早急に改善していただきたい。

《回答》

担当はスポーツ課になるが、修繕は緊急度の高いところから実施している。適切に対応をしてまいりたい。

〔西澤企画政策部長〕

『担当課：スポーツ課』

令和3年度「ながの未来トーク」集約表

【その他】

《住自協会長総括》

本日は未来トークに出席いただき感謝申し上げます。議題が3点あったが中山間地の学校の存続については、長野市ばかりでなく、我々も皆で一緒に考えていかなければいけない課題である。

有害鳥獣の捕獲に関しては、猟友会では朝早くから個体数減少のために取り組んでいる。長野市もそのご労苦に対して、敬意を表し、最善の対応をお願いしたい。

以上となるが、議事進行に協力いただき感謝申し上げます。

《竹内支所長》

本日は、遅くまで信更地区ながの未来トークにご参加いただき感謝申し上げます。

3年ぶりの未来トークで、各団体から議題として取り上げてほしい、という候補がいくつかあったが今回3つに絞られた。

「信更中学校閉校後の利用」については、学校に限らず、多くの公共施設が抱える問題だと思うが、本日、文科省に「みんなの廃校プロジェクト」というホームページの存在を知り、何か採用できそうなものもあるのではないか、という期待も出てきた。また、閉校となった更府小学校も、通信制高校にするべく準備を進めているということで、順調に進むよう支所としても協力していきたい。「中山間地域の学校存続」については、現在、保護者と教育委員会とで、話し合いを続けているとのことで、詳細は承知していないが、多くの保護者が納得される方向が導かれれば良いと思う。

「支所へのエレベーターの設置」については、未来トークの議題としては、不適當ではないか、という意見もあったが、高齢化した役員に役員を頼まなければならないような事情も存在する中で、近い将来バリアフリーが一層必要となる。現在の市の考えを確認するための提案だった。

本日の議題は全て少子高齢化に起因するものばかりだが、信更地区は、少子高齢化は進んではいるものの、市街地に近い里山、という環境に加え、「田舎暮らしを支援する委員会」の活動のおかげで、移住者も多い。こうした地道な活動が信更の活力になればいいと思うし、私も地域の課題を再確認しながら、住民自治協議会とともに活性化を目指してまいりたい。

《市長総括》

今日は、皆さん一番忙しい時間に時間をとっていただき感謝申し上げます。本当に皆さまの課題が切実なことがわかった。少子高齢化の中での課題であるが、長野市は同規模の中で、老朽化施設が2、3割多い。どうやってそれを活用していくかが非常に重要である。中山間地が元気なれば長野市の元気が出ないというのが私の考えである。特例の話もあるが一つ一つ進めていきたい。

更府小学校の利用について学校法人が利用できるよう、住自協とも話をしながら進めていただきたい。保育園、小学校、中学校の問題も、保護者生徒の気持ちを考え、最大限地域として、長野市としてできることを話し合いながら進めてまいりたいと思う。本日の課題に対する答えはすぐに出せないが、十分お聞きしたので、前向きに進むようによりしくお願いしたい。